

# オリジナルロボットの外装の作り方 前編

はじめまして、大日本技研の田中です。

外装製作の記事を、との依頼を受けまして、現在製作中の KHR-1/2HV 用の外装「TRIDENT」の製作過程を書いていきたいと思ひます。

田中 誠二 (株式会社大日本技研 代表取締役)

解説に入る前に……、まずは自己(社)紹介を。本業は、アニメ、マンガ、ゲームに登場する銃器模型の製造・販売です。

ロボット関係では、KHR-1 用トランスキット「スコープドッグ」やオリジナルの「FORMULA」を作っています。また、ゼネラルロボティクス社の「chromet」の外装も担当しました。

えらく大きな社名ですが、実質一人で運営しています。社名はマンガの「アップルシード」\*1 からとったものです。

ロボットの外装製作の工程は、おおむね次のとおりです。

- ① デザイン
- ↓
- ② スカルピーによる造形
- ↓
- ③ ライノセラスによるモデリング
- ↓
- ④ モデラでテストモデルの削り出し

- ↓
- ⑤ モデルデータの修正
- ↓
- ⑥ 製品原型の削り出し・仕上げ
- ↓
- ⑦ シリコン型取り・キャスト注型
- ↓
- ⑧ 組み立て塗装・ロボットへの装着

上記の工程は、CAD ソフトとモデリングマシンを使うことを前提に組み立ててありますが、これらを持っていない方でも、フリーの CAD ソフトもありますし、モデリングマシンは、リアルファクトリーさんの「3DCG からの立体出力サービス」\*2 などを使うことで補うこともできます。

オリジナルの外装を作る際に、必要な部分を参考にさせていただければと思います。

まったくの手作業だけで、ワンオフモデルを作る方法もありますが、これはまた別の機会があれば紹介しましょう。

それでは、外装製作の流れにしたがって、各項目について解説しましょう。

## 工程 1 デザイン

「TRIDENT」は、ファントムやデモンベインで有名な PC ゲームメーカーである、ニトロプラスさんにデザインしていただきました。

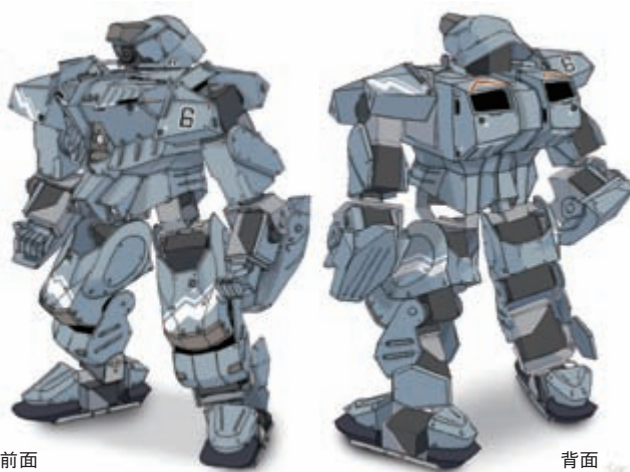
依頼時期が 2005 年秋頃だったので、KHR-1 + 旋回軸がベースになっています。

もたもたしているうちに KHR-1 は絶版になってしまったので、KHR-1/2HV 用にリデザインして作ることにします。

## 工程 2 スカルピーによる造形

全体のデザインができれば、次は各部分の作図です。

各パーツについて、三面図を起こしてくのですが、直方体、円柱など単純な形状ならまだしも、細かなブロックが組み合わ



前面

背面

図 1 TRIDENT の設定画 ©ニトロプラス / 大日本技研



図 2 TRIDENT のカラーバリエーション

\* 1 大日本技研はアップルシードに登場する会社。大日本技研と書いてポセイドンと読む。ちなみに、大日本技研は攻撃機動隊にも登場。

\* 2 株式会社リアルファクトリー (www.rfactory.co.jp)。立体出力サービスでは、Dimension BST というモデリングマシンを使っている。